



淀川水系、大阪湾

# 三都の連携（淀川河川舟運）

淀川の河川舟運による京阪神の新たな都市連携を構築します。

## ● 背景 ●

京阪神間の水上交通ネットワークの構築が求められています。

淀川は古くから「酒蔵のまち・伏見」には三栖の閘門\*1、「くらわんか船のまち・枚方」には鍵屋の辻、「くだおれのまち・大阪」には天神祭と、「文化の路」（川を交通手段）として利用されてきました。この「文化の路」を京阪神間の新たな舟運連携として育み、水辺のにぎわい、川の歴史・文化の復活や災害時の物流等の水上交通ネットワーク構築を図るべく、船着場整備、航路確保や道頓堀川等の親水空間整備による都市再生等を推進します。

## ● 事業内容 ●

淀川の船着場整備と道頓堀川の環境整備等を実施します。

淀川では事業中の船着場を完成させ、合計9カ所を利用可能とします。また淀川大堰上下流の船舶航行を可能とする閘門の検討を継続します。

道頓堀川では新戎橋～相合橋間の環境整備や橋梁の美装化、下水道改善等を実施します。

## ● 事業効果 ●

水辺のにぎわいや川の歴史・文化が復活します。

淀川船着場整備により舟運による水上遊覧や水上学習のほか、物流に舟運を利用することで周辺道路の渋滞緩和やCO<sub>2</sub>等の環境負荷の軽減にも効果が期待できます。

道頓堀川の整備により水辺景観復活や、船内での飲食、イベント等、水上交通により「水の都大阪」の魅力が高まります。



淀川船着き場 位置図



船着場（守口市内）



水上バス（大阪市内）



閘門整備予定地



天神祭

### 用語解説

\*1 閘門とは、運河、放水路等において、水位差のある水面の間に船を通過させるために水位を調節するための堰のことです。